

できる・できる・できる

中 校訓：「自主・友愛・飛躍」

令和5年10月6日
No. 35 (第163号)
長崎市立戸町中学校

文責 校長 大橋 功

<https://www.nagasaki-city.ed.jp/tomachi-j/>

「勇猛果敢」全員でたすきを繋ぐ！

5日(木)に、かきどまり総合運動公園において、長崎市中総体駅伝大会が開催されました。まずは、本校の結果をご紹介します。

【女子の部】 参加 28 校中 **第 19 位**

時間 **50 分 16 秒**

躍進賞 第 3 位 時間 **1 分 50 秒**

【男子の部】 参加 32 校中 **第 25 位**

時間 **1 時間 07 分 40 秒**

女子の部では、昨年のタイムより2分近く短縮し、見事に躍進賞に輝きました。

午後から徐々に気温も上昇し、特に、男子の部がスタートする頃には厳しい状況での走りとなりました。それでも前を見てしっかりと走りぬきました。

思えば、9月から始まった駅伝の練習。早朝とはいえ、今年も残暑が厳しく、陽が昇るとともに暑さは増し、練習は想像以上でした。暑さに慣れ、速さに慣れ、歯を食いしばり力走する選手たち。試走でも決して弱音は吐かず懸命に頑張ってきました。

宇佐美先生、清島先生、川畑先生、桐谷先生、前田先生、大津先生、事務職員の川原さん等、多くの指導に激励を受けながら練習を重ねました。そして、全員が同じ目標を見つめ、互いに励まし合い、エールを送る姿は大変素晴らしいものでした。



心の種

今回のテーマは「タスキを託し、想いを繋ぐ」です。

軽快な表情から時間の経過とともに、息を切らし苦痛の表情に変わる。それでも、仲間にタスキを繋ぎ続け、ゴールを目指し、走り続けた選手たちの頑張りにつれ、駅伝大会。それぞれがタスキを次の選手に託した後、また、アンカーがゴールし終えた後の表情は何とも言えない達成感があったように見えました。

これまでのプロセスを振り返ると、時折、羽目を外しながらもまじめに練習を積み重ねていく中で、選手たちの瞳の輝きは本物になっていきました。駅伝を通して苦楽を共にしてきた仲間たちの絆は、駅伝が終わってからも少々では壊れないはずで。

下の集合写真には、清々しい駅伝メンバーの笑顔がたくさん溢れています。



駅伝部選手力走のーコマ



新たな部活動の在り方について学ぶ

先月27日(水)の放課後、育友会室において、長崎市教育委員会から三谷智先生と森田 将史先生を講師としてお招きし、「中学校部活動の地域移行」について研修会を実施しました。



参加者は、部活動振興会長の佐藤さんと、各部活動の部長さん(代理含む)並びに外部指導者。学校関係は、管理職並びに部活動担当者です。

はじめに、三谷先生から部活動改革、長崎市の部活動の現状、国や県の動向と取組み、長崎市の動向、新たな地域クラブの推進、大会等の在り方の見直し、長崎市取組み事例、地域移行に向けての検討事項等々、多岐に渡り説明していただきました。



その後、佐藤会長さんからも、地域移行とは何処が母体なのか。これからの動き。学校、保護者、委員会の三者が意見を出し合って継続して取り組んでいくこと。実現するには、まだまだハードルが高いこと等を話されました。

質疑応答では、本校の加藤先生をはじめ、具体的な運用や指導者の問題、立ち上げについて等々、素朴な疑問を含めて様々意見交換がなされました。

部活動地域移行については、全国規模での取組みとなっているので、少しずつ且つ確実に前進できるように、引き続き研修会等計画していきたいと思えます。

なお、部活動関係者や保護者のみなさま、そして、外部指導者等で地域クラブを立ち上げたいという希望(検討中含む)がありましたら、まずは、学校にご一報ください。一緒に考えていきましょう。



1点でも上の点数にこだわる!

10日(火)は、3年生の実力テストです。三者面談での進路決定、または、方向性を決める大切なテストです。言わずとも3年生はその重みを十分に理解しているはずです。特に今回のテストは、受験本番よりも試験範囲は短いですが、問題は受験に近い内容で出題されます。これまでの自分の学習の成果と実力を確認する絶好のチャンス。



ぜひ、点数にこだわり、がむしゃらに勉強に励みましょう。保護者のみなさまも、ぜひ、体の温まる夜食と、心温まる言葉で応援してください。(〇^)

ロボットコンテストで奮闘!



1日(日)に第16回アイデアロボットコンテスト長崎市大会が、三川中学校を会場に開催されました。

本校からは、昨年度のリベンジを誓い、2年生の伊東 亮祐くんが「基礎部門」に出場しました。

基礎部門とは、規定に従って自作したロボットを使って、8個の筒を決められた場所に収納していく競技です。昨年度より難しくなりました。

伊東君は、担任(技術科)の宇佐美先生の協力を得ながらコツコツと練習してきました。伊東くんが精密工具を使って部品を組み立てる手先の器用さは担任のお墨付きです。

結果は、対 日吉中(0-7)、対 大浦中(1-1)と1敗1引き分けでした。それでも決勝パートへの可能性は残り、競技ルールに従い、同率の3校でジャンケンに臨みましたが残念ながら敗れてしまいました。今後は、11月12日(日)開催予定の県大会(佐世保大会)に、再エントリーして挑戦する予定です。応援をよろしくお願ひします。

